



モロイ准将、沖縄警察署長へ感謝状贈呈

第18航空団広報局

2012年3月21日、嘉手納基地第18航空団司令官マット・モロイ准将は沖縄警察署を訪ね、安村清正署長へ感謝状とコインを贈呈しました。安村署長は沖縄県警に34年間勤め今春退職する予定です。

モロイ准将は、安村署長のこれまでの米軍関係者に関わる犯罪捜査、基地内の警戒レベルが上がった際の周辺地域におけるパトロール強化などの尽力に対し、また嘉手納基地の憲兵隊や空軍特別捜査機関への協力に対し感謝の意を表しました。



(写真全て、米空軍：クリストファー・アンダーソン少佐撮影)

モロイ准将は「地域の安全と治安を維持する警察の任務は、県民の皆様をはじめ嘉手納基地にとりましても非常に重要で、安村署長のご尽力は大きな貢献になりました。」と述べ安村署長の功績を高く評価しました。



第13回嘉手納スペシャルオリンピックス開催決定 KSO!

Special Olympics
Kadena

2012年の嘉手納スペシャルオリンピックス開催日程が決定しました。県立特別支援学校、沖縄市、嘉手納町、北谷町、米軍基地内に所属する特別支援学級の生徒、また3市町に所属する福祉作業所 施設を中心とする障がいのある方々を対象としてスポーツ競技大会と絵画展が開催されます。9月27日(土)にはボウリング競技、10月18日(木)～21日(日)には絵画展、11月17日(土)にはスポーツ競技大会及び絵画展とメインイベントがそれぞれ下記の場所で開催されます。昨年は870名のアスリートがスポーツ競技に参加し、430名余のアーティストの絵画出品がありました。

今年もアスリートやアーティストの皆さん的心に残る大会になるよう、ボランティアで構成される実行委員会が発足し準備を開始しています。天候に恵まれた大会になりますように！

- ボウリング競技: 9月29日(土) T. T. ボウルミハマ アメリカンビレッジ(旧シーサイドボウルミハマ)
- 絵画展: 10月18日(木)～21日(日) サンエー具志川メインシティー、1階メインコート
- スポーツ競技: 11月17日(土) 嘉手納基地内ライズナ一体育施設



CONTENTS

PART I
モロイ准将、沖縄警察署長へ感謝状贈呈
嘉手納スペシャルオリンピックス 2012
ホワイトハウスへの招待
Kadena International Wine Tasting
第15回嘉手納外語塾入学式
アース・フェスト
地元歯科治療関係者が、歯科中隊を視察

PART II

SPOTLIGHT: 日本人従業員の紹介
カデナハイスクールのスポーツ部活動
米軍人・軍属等による事件・事故防止のための
協力ワーキング・チーム
弾薬庫内の不発弾処理作業に関する概況説明
空軍特別捜査局、沖縄警察署長より感謝状を受領



ホワイトハウスへの招待

第18航空団広報局

嘉手納基地第733空輸機動中隊所属のジェシカ・クームズ曹長に、ホワイトハウスから思いがけない招待状が届きました。「イラクの自由作戦」と「新たな夜明け作戦」に貢献した米国軍人を招いて開催される「感謝の夕べ」への招待状が、オバマ大統領夫妻から届いたのです。今回招かれた軍人は78名で、クームズ曹長はその一人でした。

クームズ曹長は、2011年6月から12月までイラクのアリ基地で勤務し、彼女のチームは3000件以上のミッションに携わり、35,000名の隊員の移動と65,000トンもの装備品を空輸した業績があります。クームズ曹長のチームはイラクから撤退した空軍で最後の部隊の一部です。ホワイトハウスへ招かれる隊員に選ばれたと聞いたとき、クームズ曹長は、あまりにも驚いて言葉が出なかつたそうです。

2012年2月29日、クームズ曹長は、夫であるジェレミー・クームズ曹長と共にホワイトハウスにいました。クームズ曹長夫妻はホワイトハウス内のイーストウイングや大統領図書館なども自由に見学することができました。ディナーの際、オバマ大統領はクームズ夫妻のテーブルに来て話しかけ、10代の子供をもつ親として、また夫婦共に軍人として従事することの利点や課題などについて尋ねたそうです。「オバマ大統領は、軍人である私達が必要としているものが十分なのかを気にかけ、確認してくれました。私達にとって、一生に一度の忘れられない貴重な時間でした。」とクームズ曹長は感慨深げに話しました。

「イラクから撤退する際、私達部隊はチーム一体となって働き、全ての任務をやり遂げた充実感で満たされていました。任務で培った経験と実績は、これから先何年も私達にとって大きな自信に繋がっていくと信じています。」とクームズ曹長は任務を振り返りました。



*左3点の写真は、本文とは関係ありません。

(写真全て：空軍提供)



(写真全て、嘉手納基地広報局：宮良万亜子撮影)

Kadena International Wine Tasting 第18航空団広報局

3月23日（金）及び24日（土）の2日間に亘り、「Kadena International Wine Fest」（ワイン祭り）が嘉手納基地のNCOクラブで開催されました。軍人・軍属の為の福利厚生関連イベントは年間を通して数多く行われていますが、この「ワイン祭り」は、ここ数年嘉手納基地内で開催される催し物の中でも大人気のイベントで、例年、金曜日のチケットは早々と完売するほどです。

会場のNCOクラブに入り会場入り口でチケットを渡すと、「Kadena International Wine Fest」と印字されたワイングラス一個と会場でテイスティングできるワインリストが渡されます。出店している会社ごとのリストになっており、ワインの名前や種類、原産国などが記載されています。原産国の代名詞のようなフランスやイタリアはもちろん、南アフリカ、チリ、オーストラリア、ニュージーランドなど近年日本で人気の国々のワインも多く出品されています。『国産』のアメリカ産ワインも数多くあり、カリフォルニアワインだけでなく、ワシントン州やオレゴン州産のワインも紹介されていました。ワインのお供として、チーズ、フィンガーフード、寿司や果物などが並べられ軽食を取りながら色々なワインを楽しめる趣向です。

今年は地元沖縄からも1社が参加していて、日本酒や梅酒を紹介していました。そこで米国人たちに人気があったのは、缶入りの日本酒ゼリーでした。日本の伝統的ワインにも乾杯！

第15回嘉手納外語塾入学式

第18航空団広報局



2012年4月16日、嘉手納町立嘉手納外語塾の第15回入学式が行われ、爽やかなうりづんの風と共に13名の新入生が嘉手納外語塾に入学されました。これから2年間、英語、中国語、スペイン語、コンピュータ技術、沖縄文化などを学習することです。

（写真：嘉手納外語塾提供）

嘉手納基地からは、第18任務支援群司令官のラフティール・コンスタンティーン大佐と同群副司令官のピーター・ポロック中佐が出席し、新入生を激励しました。

入学式は、在校生である2年生が準備し運営を行うというのが嘉手納外語塾の慣例で、今年も2年生が日本語と英語で入学式の司会を務めました。新入生を代表して嘉数美波さんが、これから2年間の塾生活において学業とボランティア活動に取り組む抱負を述べていました。

例年嘉手納基地はインターンシップなどで嘉手納外語塾の活動を支援していますが、今年は新たに英会話レッスンを提供する予定です。嘉手納基地からボランティアを募り、外語塾生との対話を通じて学生の英会話能力の向上を支援します。さらに様々な職場で働く米国人による講話も予定しています。





(写真全て、米空軍：ジャスティン・ヴィゼイ上等兵撮影)



アース・フェスト

嘉手納チーム「エコ」について学ぶ

第18航空団広報局

4月14日、第2回アース・フェストが嘉手納基地で開催され、訪れた人々は、ゲームやクイズを通して省エネの大切さやエコロジー（生態学）、環境保全について学びました。ゲームのなかで、競技参加者は、わさびのついたセロリや海ぶどう、ゴーヤーを食べなければならない場面もありました。

第18航空医療中隊の公衆衛生技術員であるブランディ・アレン上等兵は「楽しかったです。地球を救うための新しい考え方や知識を学びました」と感想を述べました。

また、イベントには多くの団体や個人がボランティアとして参加しました。嘉手納基地には青少年向けに様々なクラブ活動がありますが、ツイスターZ器械体操チーム、イーグルス・オールスター・チアリーダーズ、キッズ・ズンバ・トニック（ダンス）、アメリカ・エアハート小学校の太鼓チームが参加、また手品師のパフォーマンスや、第18憲兵中隊の隊員によるK-9（軍用犬）の活動を紹介など、賑やかなイベントとなりました。

嘉手納基地ではこのアース・フェストを皮切りに、「地球週間」が始まりました。コミュニティ交流を通じて、人々の環境意識を高め、子供たちに身近な場所から良い変化を起こすはどうすればよいかを喚起しています。第18部隊支援中隊のプログラママネージャーであるミッシェル・ビーンさんは、「子供たちは大きな可能性を秘めています。ボトルをリサイクルしたり、電気をこまめに消すなど、環境にやさしい活動はたくさんあります。」と、子供たちへメッセージを送りました。

地元歯科治療関係者が、歯科中隊を視察

第18航空団広報局

3月27日、地元の歯科医師と歯科医療機材を取り扱う業者職員が、第18医療群の第18歯科中隊を視察しました。

第18歯科中隊の概況説明を受けた後、同歯科中隊の各部署の様子や、歯と口内を立体画像で撮影できる3DコーンビームCTなどの最新設備を見学しました。同機器は、これまでの撮影機器と比べて、立体的に歯の様子が把握できるばかりでなく、90%以上もエックス線による被爆量が少なくなり、眼球にもエックス線による影響がないよう改善されているとのことです。

18TH DENTAL SQUADRON



（写真左）嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影

